

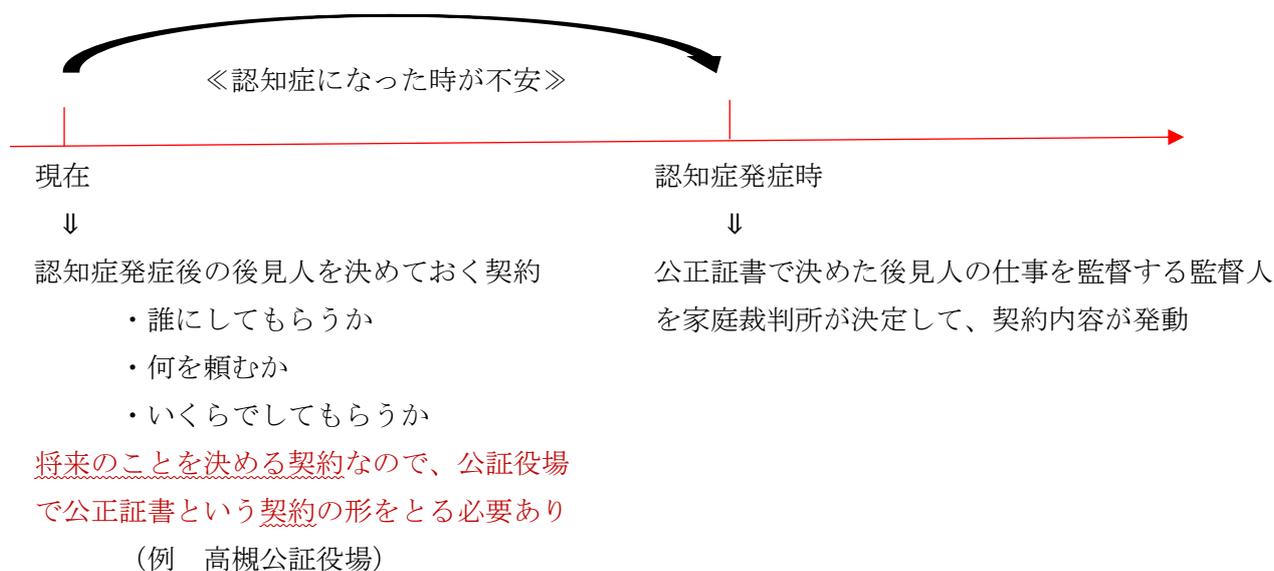
## 2023.1.28 ケア講座「成年後見制度とその近況について」

### アンケートからの質問

#### Q1.任意後見制度をもっと知りたい

※任意後見人・・・ご本人の意思が反映できる最善の方法なので、法定後見に優先される。が、不正があってはいけないので、発症後は監督人の監督を受けることに。

※法定後見人・・・あくまでも判断能力が落ちてからの制度



#### Q2.後見を利用している本人家族のナマの感想が知りたい

ご本人と家族の関係は、置かれている状況により大きく異なります。特に 80・50 問題に直面しているご家族は、有用に後見制度を活用されますが、いつまでもイニシアチブを取っておきたい家族などとはどうしても対立関係に至ります。従って、事前の十分な理解が必要ですし、相互理解のためのコミュニケーションが欠かせません。この点をないがしろにすると、関係が悪化し辞任の必要に迫られますし、現在の成年後見制度の悪評に繋がっているのではないかと考えます。

一方、ご本人ですが、こちらも対象者の障害類型、人柄、生育歴により利用の印象は大きく異なります。ただ、ご本人についても制度の理解（〇〇後見人が私にはついていて、援助をしてくれている、程度の）は必須で、常にコミュニケーションを図らないと、たちまち関係が破壊され、こちらも辞任に至ります。

※一概にはいえませんが、ポイントは後見開始前の説明、関係性にあるといえます。十分な時間を掛け、①説明を尽くしているか、②制度の理解が進んでいるか、③誰が後見人になるか、こうした点が明らかにされていると、開始後の印象は良いものとなり、役割分担（本人と後見人、家族と後見人）も進みます。一般的に、この時期の対応の悪さ、適当さが後々の混乱を生んでいるといえます。

Q3.認知症の方の意思を尊重するうえで、ご本人の本当の思いを引き出すコツや工夫があれば教えてくださいと思います。

難しい問題ですが、①ご本人との対話を、過去から現在へ遡りながら長い時間軸で聞き取っていく作業を行う、②簡単な選択肢に落とし込み、何度もお聞きすること、でしょうか。いずれにしても繰り返し、時間を掛けることが必要ですので、火急的速やかな判断が求められる・・・といった事態に至る前から、いろいろな場面を想定したコミュニケーションが必要ではないでしょうか。

以上となりますが、十分な回答になっていないことは何卒ご容赦ください。